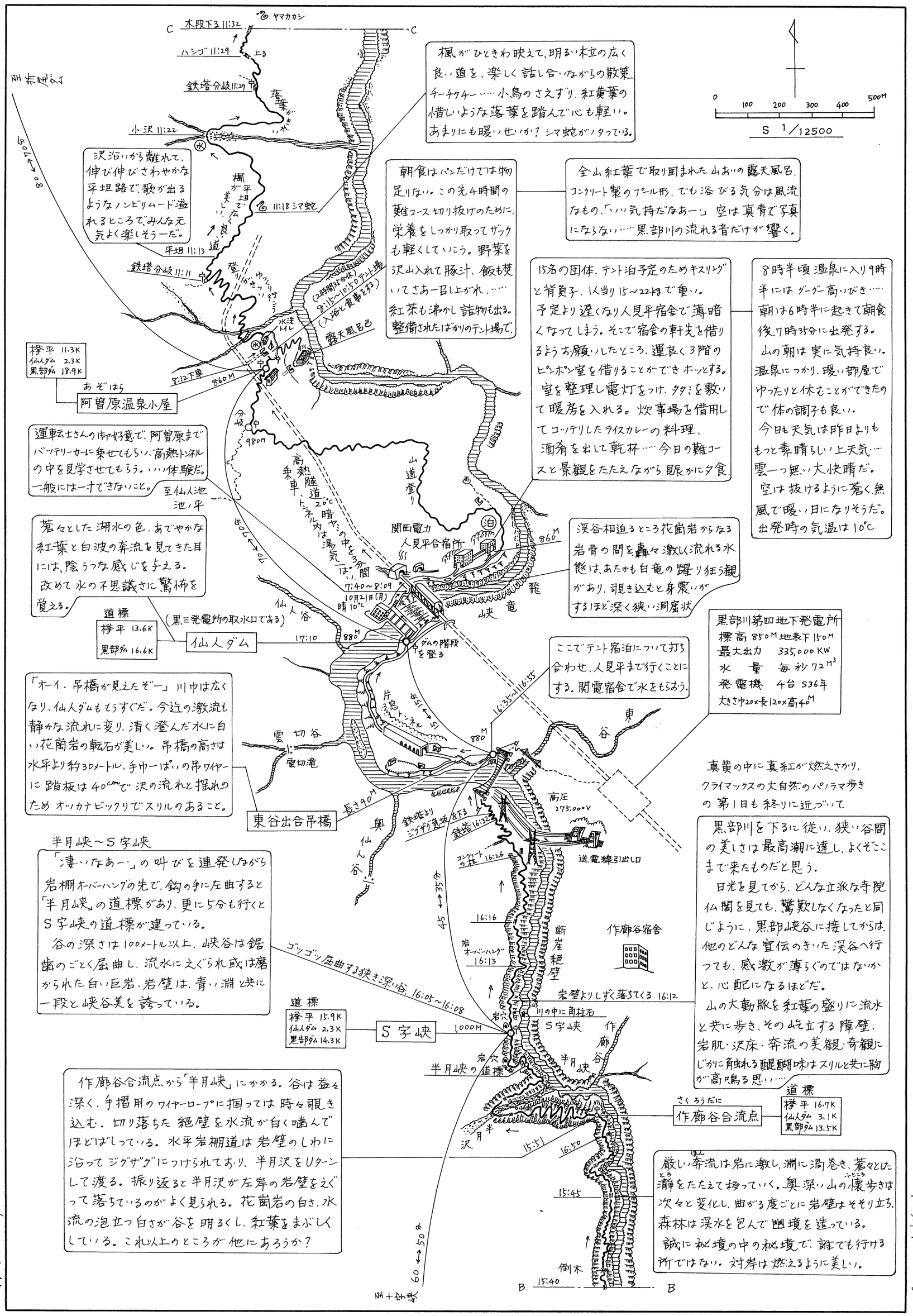
S 1/12500
0 100 200 300 400 500M
至折尾谷
木段下る 11:32
ヤマカカシ
ハシゴ 11:29
鉄塔分岐 11:27
落葉がきれい
小沢 11:22
沢沿いから離れて、伸び伸びさわやかな平坦路で、歌が出るようなノンビリムード溢れるところで、みんな元気よく楽しそうーだ。
楓が平坦で美しい 広く良い道
11:18 シマ蛇
平坦 11:13
鉄塔分岐 11:11
登りがきつい ゆっくり行こう
楓がひときわ映えて、明るい木立の広く良い道を、楽しく話し合いながらの散策。チーチクチー……小鳥のさえずり。紅黄葉の惜しいような落葉を踏んで心も軽い。あまりにも暖かい せいか？ シマ蛇がノタっている。
朝食はパンだけでは物足りない。この先4時間の難コース切り抜けのために、栄養をしっかり取ってザックも軽くしていこう。野菜を沢山入れて豚汁、飯も焚いてさあ一巻上がれ、……紅茶も沸かし詰物も出る。整備されたばかりのテント場で、
全山紅葉で取り囲まれた山あいの露天風呂。コンクリート製のプール形、でも浴びる気分は風流なもの。「いい気持だなあー」空は真青で写真にならない……黒部川の流れる音だけが響く。
水洗トイレ
露天風呂
(2時間30分休)
8:15～10:15 テント場
(入浴と食事をする)
8:12下車
860M
あそはら
阿曽原温泉小屋
榑平 11.3K
仙人ダム 2.3K
黒部ダム 18.9K
15名の団体、テント泊予定のためキスリングと背負子、1人当り15～22kgで重い。予定より遅くなり人見平宿舎で薄暗くなってしまう。そこで宿舎の軒先を借りるようお願いしたところ、運良く3階のピンポン室を借りることができホッとする。室を整理し電灯をつけ、タタミを敷いて暖房を入れる。炊事場を借用してコッテリしたライスカレーの料理、酒肴を出して乾杯……今日の難コースと景観をたたえながら賑かに夕食。
8時半頃温泉に入り9時半には グーグー高いびき……朝は6時半に起きて朝食後、7時35分に出発する。
山の朝は 実に気持良い。温泉につかり、暖い部屋でゆったりと休むことができたので 体の調子も良い。
今日も天気は昨日よりもっと素晴らしい上天気……雲一つ無い大快晴だ。空は抜けるように蒼く無風で暖い日になりそうだ。出発時の気温は10℃
分岐
980M
運転士さんの特ア好意で、阿曽原までバッテリーカーに乗せてもらい、高熱トンネルの中を見学させてもらう。いい体験だ。一般には一寸できないこと。
至仙人池
池ノ平
高熱隧道 20℃ 暗やみの中を3分間 乗車、トンネル内は湯気がいっぱい
山道登り
関西電力 人見平合宿所
泊
860M
渓谷相迫るところ花崗岩からなる岩骨の間を轟々激しく流れる水態は、あたかも白竜の躍り狂う観があり、覗き込むと身震いがするほど深く狭い洞窟状
飛竜山夾
蒼々とした湖水の色、あでやかな紅葉と白波の奔流を見てきた目には、陰うつな感じを与える。改めて水の不思議さに驚怖を覚える。
10月21日(月) 晴 10℃
7:40～8:09
仙人谷
(黒三発電所の取水口である)
道標
榑平 13.6K
黒部ダム 16.6K
仙人ダム
17:10
880M
ダムの階段を登る
黒部川第四地下発電所
標高 850M 地表下 150M
最大出力 335,000 KW
水量 毎秒 72M³
発電機 4台 S36年
大きさ中20×長120×高40M
ここでテント宿泊について打ち合わせ、人見平まで行くことにする。関電宿舎で水をもらおう。
16:35～16:55
「オーイ、吊橋が見えたぞー」川中は広くなり、仙人ダムももうすぐだ。今迄の激流も静かな流れに変り、清く澄んだ水に白い花崗岩の転石が美しい。吊橋の高さは水平より約30メートル、手巾一ぱいの吊ワイヤーに踏板は40cmで沢の流れと揺れのためオッカナビックリでスリルのあること。
片窓トンネル
51 ↔ 15分
雲切谷
雲切滝
東谷出合吊橋
長さ90M
奥仙人谷
鉄塔より ジグザグ急坂を下る
鉄塔 16:32
高圧 275,000V
送電線引出し口
コンクリートの柱 16:26
45 ↔ 35分
真黄の中に真紅が燃えさかり、クライマックスの大自然のパノラマ歩きの第1日も終りに近づいて
黒部川を下るに従い、狭い谷間の美しさは最高潮に達し、よくぞここまで来たものだと思う。
日光を見てから、どんな立派な寺院仏閣を見ても、驚歎しなくなったと同じように、黒部峡谷に接してからは、他のどんな宣伝のきいた渓谷へ行っても、感激が薄らぐのではないかと、心配になるほどだ。
山の大動脈を紅葉の盛りに流水と共に歩き、その屹立する障壁、岩肌・沢床・奔流の美観・奇観にじかに触れる醍醐味はスリルと共に胸が高鳴る思い……
半月峡～S字峡
「凄いなあー」の叫びを連発しながら岩棚オーバーハングの先で、鈎の手に左曲すると「半月峡」の道標があり、更に5分も行くとS字峡の道標が建っている。
谷の深さは100メートル以上、峡谷は鋸歯のごとく屈曲し、流水にえぐられ或は磨かれた白い巨岩、岩壁は、青い淵と共に一段と峡谷美を誇っている。
16:16
断崖絶壁
作廊谷宿舎
岩オーバーハング 16:13
ゴツゴツ屈曲する狭き深い谷 16:05～16:08
岩壁よりしずく落ちてくる 16:12
川の中に角柱石
道標
榑平 15.9K
仙人ダム 2.3K
黒部ダム 14.3K
S字峡
1,000M
S字峡
作廊谷
半月峡の道標
半月峡
作廊谷合流点
道標
榑平 16.7K
仙人ダム 3.1K
黒部ダム 13.5K
作廊谷合流点から「半月峡」にかかる。谷は益々深く、手摺用のワイヤーロープに掴っては時々覗き込む。切り落ちた絶壁を水流が白く噛んでほとばしっている。水平岩棚道は岩壁のしわに沿ってジグザグにつけられており、半月沢をUターンして渡る。振り返ると半月沢が左岸の岩壁をえぐって落ちているのがよく見られる。花崗岩の白さ、水流の泡立つ白さが谷を明るくし、紅葉をまぶしくしている。これ以上のところが他にあろうか？
半月沢
15:51
16:50
15:45
厳しい奔流は岩に激し、淵に渦巻き、蒼々とした清をたたえて移っていく。奥深い山の懐歩きは次々と変化し、曲がる度ごとに岩壁はそそり立ち、森林は渓水を包んで幽境を造っている。誠に秘境の中の秘境で、誰でも行ける所ではない。対岸は燃えるように美しい。
倒木
15:40
B B
至十字峡 60 ↔ 50分